

1

第1回にしお未来まちづくり塾の振り返り

開講記録●平成26年7月13日(日)9:00~12:00/西尾市役所(5階)51会議室/1組17名・2組21名

第1回テーマ：市民が集う場所ってどんなところ？～再配置プロジェクトがかなえる未来を創造しよう！～

なぜ、ワークショップをやるのか

⇒まちの未来形成の「主権者」としての市民参画のために！

これまでのまちづくりは、どちらかと言えば行政が主体となって進めてきました。市民の皆様の関わり方は、決定したものに意見をjする程度でした。しかし、市民の皆様こそが、まちの未来形成の「主権者」です。そこで西尾市は、市民の皆様の多様な「価値観」を尊重し合いながらまちづくりを進めていくために、本塾を開講しました。

人が集まる場所ってどんなところだろう？

～ファシリテーター・花井裕一郎氏の考え方～

人が集まる場所 = まず、①居心地のいい場所

それは、②曖昧な場所

そして、③デザインコードを考えた場所

人が集える「広場」を作って、「コミュニケーション」を取り、共に「未来」を考えるイメージでまちづくりを考える。

⇒既存概念を取っ払う！ 妄想する！ それが、発想の転換！

テーマパークを作るのではなく、コミュニティを作ることが最優先。地域に合った歴史・アイデンティティを積み重ねることで、住んでいる人に馴染み、快適なまちになることを目指しましょう。

塾生（市民の皆様）から挙がった西尾市に必要な「妄想」

◆コミュニティ強化で世代を超えたさまざまな交流ができる場所に

西尾市のコミュニティを強化し、住みやすいまちにしていきたいために、中学校を町の真ん中に設置して、世代を超えた交流が出来るまちを目指したらどうかという意見や、高齢者も活気ある意見交換が出来るような場所、父親のコミュニティづくり、男性が集まれる場所、あるいは「変な場所」を求める声もありました。

◆「西尾市」の情報発信を積極的に

「西尾市の元気を維持していくためには、西尾ブランドをもっとアピールしていきたい！」ということで、地魚料理のお店や西尾のお酒などをブランドとして発信していくことや、キャンプ地を作り、地元の名産物を商品として販売し、地元の名所にしていきたいというアイデアが飛び交いました。「次世代の子供たちが市外に出て、西尾を語れるような、発信してくれるようなまちづくりをしなくてははいけない。むしろ、子供たちが西尾へ人を呼んできて欲しい」という思いも語られました。

◆安心・安全だけではなく市民が集える楽しい場所に

防災の面も踏まえて「みんなの高台」を作りたいという意見がありました。ただ、防災のためだけに作るのではなく、そこが普段は市民の集う拠点となり、イベントも随時開催出来るような楽しい場所にしたいという妄想が膨らみ、「B1グルメ大会を開きたい」「お酒も飲める場所にしたい」「お洒落な地魚料理店を構えたい」などの妄想がたくさん出ました。そして、1つ作れば良いということでもなく、どこに住んでいても安心・安全な避難所を随所に考えていこうという声も上がりました。

第1回の流れ

1 開講式

- ①あいさつ：恒川和久・西尾市公共施設再配置アドバイザー（名大准教授）
- ②本塾の進め方・進行役紹介：天米一志・にしお未来まちづくり塾コーディネーター

2 花井裕一郎氏のワークショップ

- ①アイスブレイク（自己紹介）
- ②語らい1～妄想しよう～
〈席替え〉
- ③語らい2～妄想しよう～
- ④中間報告会
〈席替え〉
- ⑤語らい3～妄想しよう～
〈最初の席に戻る〉
- ⑥語らい4～理念をつくる～
- ⑦発表
- ⑧まとめ

各テーブルで出された西尾市のまちづくりのイメージ

1組（吉良地区）：★西尾に住みたい、離れたくない、愛のあるまちづくり

★歴史と人情と文化を育む拠点

★市民が創る、なんにでも使える、キラッと輝くすっごい広場

2組（一色地区）：★活気（ワクワク）のある安心の場

★安心・安全・交流・交通～子供にやさしい刺激あるまち～

★色々な色（＝楽しみ）が集まるまち

～わいわい（ワクワク）クリエイション広場～

第2・3回にしお未来まちづくり塾の振り返り



開講記録 平成26年8月24日(日)9:00~12:00/西尾市役所(5階)51会議室/1組19名・2組16名
平成26年9月7日(日)9:00~12:00/西尾市役所(5階)51会議室/1組14名・2組14名

第2・3回テーマ：SEEDLING(シードリング)で吉良地区と一色地区の未来の種(公共空間)を探そう

シードリング作業=既に知っている/新たに知る種をネタにして発芽させよう

～ファシリテーター・齊藤正氏の考え方～

普段何気なく過ごしている日常のまちは、市民の皆様の思い描いているまちと同じでしょうか？皆さまの住むまちをいつもと違った目線で歩いてみると、思わぬヒントや良い所が見つかるかもしれません！それらを「種(シード)」に見立てて、まちの中の種をたくさん探す「シードリング」作業を行い、集まった種から発芽させて、西尾市オリジナルのまちづくりのアイデアを膨らませていきましょう！

市民の声からつくられる「まちづくり」を「まちの人が言い出した」ことが大事！

再配置プロジェクトを受けて・・・西尾市民である塾生たちの「声」

- ・建物を壊すことで文化も消えてしまう可能性には要注意。もっともっと議論をしよう！
- ・家族が1日過ごせる空間や、若者がビジネスを展開させることのできる空間がない！
- ・防災のことは防災、再配置のことは再配置、今はそれぞれ別に考えた方がいいのでは？ 等々・・・

「既成概念を取っ払う！」(このキーワードは第1回目のまちづくり塾でも出ましたね！)

塾生 「大きなホールを作って人を呼ぶのもいいけど、地元の人が集まるところにするにはどうしたらいいの？例えば子どもたちの集まりやすい場所も大事だけど、独身男性はどこに集まればいいだろう？」

齊藤氏 「子どもたちが集まると独身男性来られないというのは**既成概念**！男が行きたがる場所 = 若い女性がいるところ = ガーリーな場所 = 子どもが行きやすい場所・・・と考えれば、一つの空間でも繋がる！！！」

宿題(シードリング作業)の成果発表！

1組(吉良地区) 「駅をもっと活用してもっと人が集まる場所にしたい！」「吉良中の横に広い敷地がある！おやじの会や消防団のようなボランティア・自主活動の拠点にもなるような、人の集まる空間にしたい！」「市内にあるチーズ屋さん、西尾市のブランドとしてもっと発信出来るのではないかな？赤馬は市内の新たなかわいい目玉として発展し得るのではないかな？合併によって市の範囲が広がり手に入れた広大な自然という財産、有効活用しよう！」「親子会や吉良女性の会など、人の動きが活発だから、そういう人たちの活動できる場を設けることは大事！」「名鉄電車でジャズ演奏する高校もあった！」「三州三河海道、海沿いの駅があったら目立つのではないかな？」「吉良町は小エリア毎に良い所がある！横須賀では美味しいたけのこ料理、竹林にある告白スポット、岡山には岩山があって景色が良し、ワイキキビーチ、吉田神社等々・・・」

2組(一色地区) 「一色出身の有名な彫刻家がいる！昭和の町並みにも彫刻を展示したらどうか？」「グルメ×音楽の企画があったらまちおこしに繋がるのではないかな？」「デンキブランを作った神谷伝兵衛は一色出身！もっとまちおこしに繋がれるのでは？」「一色支所地にこだわらず、一色地区内の防災拠点を色々とリストアップしていく必要がある！対米住宅も防災基地化できるのではないかな？」「空いている農地がたくさんある！有効活用して家庭菜園や農業体験学習などを普及させていきたい！」「昔と違って子どもの遊び場、ニーズが変わった。今の時代の子ども達に合った遊び場づくりをしなければいけない！」「一色さかな広場、もっと釣りがしやすい環境に出来ないかな？」「一色には鯉のぼりならぬ鰻のぼりがある！これも目玉なのではないかな？」「一色マラソンは今年49回目を終え、次は記念すべき50回目！伝統なので残していくべきだし、もっと市としてアピール出来る！」「先人達の碑がたくさんあるから、それを回って学べる教育があるべきだと思う！」

第2回の流れ

- (復習)なぜWSをやるのか
- 齊藤氏の実践紹介
- 市民の声を出そう
- 次回の宿題説明

第3回の流れ

- シードリング作業(宿題で見つけた「種」を皆で共有)
- マッピング作業(「種」を地図に落とし込んでいく)
- ビジョンを考える作業(地図を眺めながら街の在り方を描く)
- スパイ作戦(他のグループの発想を盗む)
- ネーミング作業(街のキャッチフレーズを考える)
- まとめ

各テーブルで出された再配置プロジェクトのネーミング案はコレ！

- 1組(吉良地区)：** ★か民ぐ(Coming) 吉良
★三州 三河街道 海の駅・遊休の都 吉良の庄
★愛を育む湾岸道路
- 2組(一色地区)：** ★先人達に学べ！ 生きる為の作法
★魅知なるわが町
★HEAT EAT SAFETY プロジェクト一色

第4回 にしお未来まちづくり塾の振り返り

開講記録●平成26年10月4日(土) 13:00~16:00/西尾市役所(5階) 51会議室/1組16名・2組16名
名古屋大学関係者16名・傍聴者6名

第4回テーマ：作りたい未来を実現する公共施設のあり方を見つけよう！（名古屋大学連携WS）

ビジョン(テーマ)とアイデアでまちづくりを考える

～ファシリテーター・大宮透氏の考え方～

これまでのワークショップで交わされた意見は、大きく分けて2つの種類があると言えるでしょう。それは、西尾市としてどういう町になって欲しいかという「ビジョン(テーマ)」(=実現させたい町のイメージや、大切にすべきことの方向性など)と、その実現のためにどうするかという「アイデア」(=「ビジョン」の実現のための手段)の2つです。今回は、塾生の皆さんの持つ「ビジョン(テーマ)」を、名古屋大学の学生からたくさん「アイデア」をもらうことによって、より納得のいく、可能性の広がるものにして、最終的には西尾市が取り組む再配置プロジェクトの要求水準に繋がるように進めていきたいと思います。

スペシャルゲスト・名古屋大学の学生達からの提案



左の写真は、名古屋大学の学生の皆さんが大宮氏の考え方に基づいて作成した、5色で示されたテーマ(「安心安全のまちづくり」「お酒を飲む賑わいの場」「若い人への定住促進」「歩いて暮らせるまちづくり」「自然とふれあうまちづくり」)と、それぞれのテーマに沿ったアイデアが記されたカードです。また、一色地区と吉良地区の西尾市再配置計画対象施設についても、「例えばこんな施設はどうでしょう?」と提案するための模型を用意していただきました。

この模型には、作成されたカードに散りばめられているような「ビジョン」と「アイデア」が随所に盛り込まれており、塾生たちは学生たちの提案をもとに、実現可能な西尾市の公共施設のあり方を考えました!



「模型があって具体的な議論が出来たので楽しかった」との感想が塾生からもたくさん出ました!
名古屋大学の皆様、
どうもありがとうございました!!!

塾生たちが考えた、具体的な「ビジョン(テーマ)」と「アイデア」

●ビジョン(テーマ)

- 1組(吉良地区) : 吉良まつりができる場所/大人が楽しめる要素の施設/多目的新生涯学習施設/「見える化」できる施設づくり**
- 2組(一色地区) : 多世代(子どもからお年寄りまで)をつなぐコミュニティ化/防災拠点の明確化/自然を生かした空間利用/市営住宅のみでなく賑わい創出拠点**

●アイデア

- 1組(吉良地区) : お酒を飲みながら本が読める場所/吉良中でナイトヨガや上映会/吉良のエリアを分割して特色化/施設の傍に駅を設置/遊んで学べる野外施設/アクセスしやすい中学校と支所の統合(文化会館も入れたらどうか)**
- 2組(一色地区) : 施設を回廊で繋いだ避難動線や立体駐車場が防災拠点にもなる/回廊は避難用だけでなくカフェやマルシェ、ライブ、フリーマーケット、栽培などに活用/公園は遊具も増やす/一色支所をアートの拠点化**

第5回 にしお未来まちづくり塾の振り返り

5

開講記録●平成26年10月18日(土) 9:30~12:30/吉良支所(2階)1会議室/1組14名・特別ゲスト10名・傍聴者1名
14:30~17:30/一色健康センター(1階)ホール/2組11名・特別ゲスト13名・傍聴者7名

第5回テーマ：来て欲しい、あの人が使いたくなる公共施設をデザインしよう

各世代、各階層の地域のスペシャルゲストの皆さまと一緒に考えるこれからの公共施設

今回は、塾生以外の一色・吉良地区に関わりの深い市民の皆様を特別ゲストとしてお招きして、そうした方が使いたくなるような公共施設がどんなものなのか、一緒に考えるワークショップを行いました。ゲストには、「社会福祉法人歩々の会(障がい者団体)」「吉良高校」「一色高校」「保育園父母の会(子育て世代)」「20代の若者世代」など、西尾市でご活躍の幅広い世代・職種の方にお越しいただきました。いつもは意見を出す塾生の皆さまが、今回は同じ市民の考えを聞く側になり、これまでのワークショップで繰り広げられてきた話題をもっと具体的な要求水準レベルまで発展させるため、一緒に対象施設やエリアを歩きながら、今回の西尾市のプロジェクトに具体的に求められている機能・要望を抽出していくことが目的でした。

ゲストが欲しい(本当に行きたくなるような)施設のあり方(機能・運営・デザイン)を見出そう

- ⇒塾生の大事にしたいこととゲストの考えには、合致点や相違点が見えてくる
- ⇒ほんとうの意味で楽しいまちづくり、施設づくり、そして生活を



各グループから発表されたテーマ

【1組：吉良地区】

・子育て世代①「みんなで見守る子ども達～駄菓子屋からはじまる愛のまちづくり～」

駄菓子屋の年寄りが見守るような、子どもも少しの金額でも楽しめるような、そんなあたたかいまちづくりをしたい。子どもの移動を考えると、エリアを繋ぐ歩道橋(田舎にはあまりないからそれも楽しみになるかも！?)があったり、公共施設としての年間プリペイド的なものが出来ると、「それを持っている＝地元の子供、お年寄り」という証にもなる、というのも面白いのでは。市民バスの活性化でアクセスUP。建物の中心にトイレがあると綺麗に使う。おしゃれで高いものがあるお店も良いけど、小さい子ども連れでも気軽に使えるように、自販機や売店程度のものであるといいのかもしれない。子育ても含め相談する場所が欲しい。1階は無料で気軽に使える、2階は昔あった「達人ネット」を復活させて、地元の達人やクリエイターがイベント出来るようなスペースに活用して、小さくなった子どものいらぬものをリサイクル出来る場所にもしたい。

・子育て世代②「お母さんの公園」

吉良地区では、親子が安全に遊べる場所がない。公園には行くが、お母さんの居場所がないため、立ったまま子ども達を見守っている状態で、お母さん同士が、なんでもない話をちょっと座って話せるようなスペースがあると良い。遊具の対象年齢にも偏りがあるので、どの年齢の子も遊べる機能が欲しい。出入口は一箇所にして、走り回らせても安心安全な場所が良いなという話になった。コンビニの導線をしっかり持たせ、お母さんたちの居場所や幼児向けの機能をガラス張りの施設内に入れて、安心して見守りながら遊べる交流ある場所になるだろう。大きな遊具が欲しいのではなく、一般的な公園でいい。遊具を使う順番を教えることにも社会的意味がある。また、お年寄りの方もストレッチが出来るようなスペースを設けたい。

・高校生「部活のあとのパラダイス」

学校帰りに気軽に立ち寄れる場所が欲しい。「食べる」ことを中心に「遊ぶ(=ゲームやカラオケやイベント)」「学ぶ(=遅くまで使える自習室)」「動く(=部活の延長や学校でやれないスポーツ活動が出来る)」「しゃべる(=たまる場所)」の要素が欲しい。コンビニでたまると周りに迷惑と言われる。なので大学の学食的なイメージの場所があるのが良いと思う。21時頃まで空いていると嬉しい。きちんとその場所があると過ごしやすい。「動く」についても、学校はやはり野球部が優位なところがあったので、他の部活のためにも必要。学校で出来ない種目もやれる。

・障がい「チャレンジャーと一緒に造るんジャー！」

今、障がいのある方を「チャレンジャー」と呼ぶ傾向にある。点字ブロックが必要な方や車椅子の方のために必要な設備で知らないことが多かった。学びが多かった。扉1つにしても、開き扉か、引き戸か、自動ドアかで全然違う。トイレについては、障がい者に限らずオムツ替えをしたいお母さんたちのニーズもまかなえるようなトイレに。駐車場も雨よけの屋根が欲しい。ホールのような場所は1階の方が行きやすい。ペDESTリアンデッキのような工夫をしてエリアを繋ぐのも嬉しい。防災対策としては、災害時使えないであろうエレベーターについては、スロープにして貰えるといいのではないかな。障がい者の使いやすい小銭を入れやすい自販機なども必要だ。生涯学習施設としては、音楽を楽しめる機能と、個人の持っている趣味や得意とするものを上手く利用して活動出来る機能が必要なので、臨機応変な場所が必要

【2組：一色地区】

・子育て世代「安心安全な子育てができるまちづくり」

小さい子どもは何かと病院にかかることが多いが、例えば耳鼻科がないので耳鼻科も欲しいし、欲を言えば産婦人科も欲しい。つまり、開業医が増える町になって欲しいという話になった。子育て支援として機能しているのは児童センターくらいしかないが、17時までしか利用出来なかったり、延長保育が2ヶ月程前からの予約しか出来ない。仕事で夜勤がある時、急なアクシデントがあった時、日曜日等、子どもを安心して診てもらえる、預けられるまちになって欲しい。公民館は確たる目的なしには行かない場所になっているため使わないが、例えばファミリーサポートセンターに子どもを預けるのは、知らない人に預けることになるため抵抗があるから、公民館が子どもと待ち合わせが出来たり、親が交流出来る場所になると良い。また、ベビーカーが入りにくいサイズのエレベーター等も改善して欲しいし、近くにある保育園で行事がある時は駐車場が足りないのももう少し確保して欲しい。また、せっかく誇れる地場産業がある一色なのに、PRが少ないしグルメが目立たない。そもそも地元の人も観光資源のことを知らない。一色はモーニングが出来る場所もないので、子どもも連れて行きやすい気軽に飲食が出来る機能も欲しい。

・高校生「1日過ごせる新空間・センター オブ デルタ」

公民館、健康センター、学びの館を連動させて、3つを繋げるという意味で「デルタ」という名前を付けた。1日中過ごせるように現在の施設の機能を改善するためには、まず、学びの館の閉館時間を18時から21時まで延ばして欲しい。そうすると部活後とかでも勉強する人は増えると思うし、加えてパソコンも使えるようになるともっと増えると思う。

また、音楽をやっている人がなかなか場所がないことから、気軽に使えるようなライブハウスも欲しい。例えば高校生に和太鼓クラブが多いので、そういった子ども達も含めて、公民館は一色に限らず、愛知県内の高校生が音楽や芸術のために集まるようなイベント用にも、使いやすしたらどうだろうか。健康センターには、運動やイベントなどの後に利用しやすいちょっとした温泉も作って、コミュニティの場にする。今広だけの広場には、ストリートバスケや簡易ステージなどが設置されると使いやすいし人も集まるのではないかな。



・20代「ワガママな若者でも利用できる施設」

若者を2つに分けると、一色在住ですぐに帰ることの出来る人か、一色のことを知らない人に分けられると想定し、前者の人を対象に、施設を利用するなら何をするか考えた。今一色に住んでいる若者は、きっと多くが朝8時頃から仕事が始まり、夜の8時、9時頃まで仕事をしている人が多いだろう。仕事中施設を利用しないとしたら、いつ使うかという、それ以降か休日。その時間帯に何をしたいかという、夜のスポーツや勉強、休日のBBQやコンサートだろう。タイトルにあるように、とりあえず行って施設が空いているかどうか、というのはあまりやりたがらないため、予約は簡単に出来るシステムが欲しい。場所も時間も確保が出来ないとやりたがらないワガママな若者たちのためには、夜遅くまでスポーツや勉強に使える、予約も簡単で、講座やイベント情報、空室状況なども早く確認出来て、ちょっとした空腹も満たせるような機能などがあると利用する。とにかく使える確約がないと使いたくないし、その利便性が上がるのであれば、多少利用料金が上がっても苦にはならない。



・障がい「地域みんながふれあい育つ処」

障がいのある方たちが行く施設は、トイレや駐車場が充実しているところ。そうすると、イオンとか高島屋のような場所が一番使いやすいという話だった。一色の対象施設と一緒に回ると、扉が開きにくいことや、電気が付きにくいこと、外に出る時のスロープが使いにくいこと、エレベーターが狭いこと等々の課題に気付いた。エレベーターも狭く、施設によっては30人くらいで行くと3階まで上がるのに30分くらいかかることもあるとのこと。色々な問題の解決案の1つとしてスロープの活用がテーマに挙がった。外に出て行く時も、広い駐車場で雨風がしのげることや、エレベーター以外にも上の階まで上げられる手段になること、災害時にも活用出来たり、これまで話題に出ていた回廊を使った避難所の発想を活かすと、スロープの屋根も活用出来るかもしれない、という意見が出た。学びの館はエレベーターでは3階まで行けないので、車椅子では行けない。こういうところも改善するべき。大提灯を見ながらお茶できるカフェスペースがあったらその場にいくのではないだろうか。外に出ると子ども達がたくさんいる日もあって、障がいのある方も元気をもらえたり、子ども達も気にかける。障がいといっても人それぞれで、課題も人それぞれ。目の不自由な方のための点字ブロックは、車椅子などには危険。だからこそ、周りの人たちが理解して育っていくことが必要。外でも中でも過ごしやすい環境に整えることで、そこが地域みんながふれあい育つ場所になるのではないかな。



★大宮ファシリテーターの感想

来てほしい人が何を望んでいるのか、その人の生活スタイルを理解しないと、デザイン出来ないのだということを実感した。大提灯の勿体無い点になっている「あるだけ」を見ながら楽しめる体験を組み合わせることで、行くことの価値が増えるだろう。また、今日トイレの重要性を感じた。どの公共施設を回ってもトイレは綺麗ではないという印象を受けやすい。実はそういうところの居心地の良さを考えることが、盲点で重要なところだと感じた。

第6回 にしお未来まちづくり塾の振り返り

開講記録●平成 26 年 11 月 8 日（土）13:00~16:00/西尾市役所（5 階）51 会議室/1 組 10 名・2 組 13 名・傍聴者 4 名

第6回テーマ：PFI法の観点から考える官民連携のまちづくり

“市民の声”を反映させた「要求水準書」を作成しよう

これまでの行政計画は、市民の皆さまに向けて決まったことを伝えていこうな「インフォメーション型」でしたが、西尾市は今回、公共施設再配置の取組みの中で、にしお未来まちづくり塾のように、多様な市民の皆さまの声を反映させた「コミュニケーション型」の実践を行ってきました。

市民の皆さまの声を出来る限り反映していくために、その声を盛り込んだ要求水準を作成することで、性能発注を行います。これまでのワークショップは、「既成概念を取っ払う・妄想」から始まり、「シードリング」作業により、まちに埋もれている魅力を発掘しました。そして「テーマとビジョン」に分けて具体的に対象施設をどのようにしていきたいか考えてきたので、この回では実際に施設を建てる上で、あるいはサービスを提供していく上で、起り得るリスクを想定しながら、「ココはしっかりして欲しい！」という視点をまとめていくことを目指しました。

第6回の流れ

- ① 今後の方針（10分）
- ② 前回の振り返り（10分）
- ③ 学ぶ（30分）
- ④ 整理する（30分）
- ⑤ 考える（50分）
- ⑥ 創る（20分）
- ⑦ 寸劇で発表する（30分）

法律って何だろう？ 「ルール（モニタリング）×まちづくり」

メインファシリテーター・山田小百合氏から

「法律は簡単に言ってしまうと「ルール」のようなもの。西尾市のまちづくりにどんなルールを作ったらいいだろう？西尾市のまちづくりの秩序を守っていくために・・・！」

弁護士・坂栄鷹子氏の話

再配置プロジェクトに潜むリスクとは？

- ・カギとなる重要な書類→業務要求水準書：再配置プロジェクトの業務内容(性能)の基準が書かれているもの
- ・サービスの品質維持に重要な体制→モニタリング：提供される公共サービスの水準を監視すること
→業務要求水準書の作成においても、モニタリングの実施についても、まずは事業が抱えるリスクを把握することが必要！（例：公園の遊具が適切な点検がされていないために子どもが怪我するリスク/施設の廊下にあるものによって障がいのある方や高齢の方が転倒してしまうリスク/利用者数が見込みより少ないことで経営破綻に陥るリスクなどなど）→リスクを想定して、それに対応できるモニタリング（ルール）を考えよう！

塾生たちが考えたリスクとモニタリング

想定し得るリスク	必要であろうモニタリング
小さい子どもがいることで、子育て層が昼間の講座やイベント、公共施設に設けた飲食店に行けずに利用率が下がるといふリスク。	子どもを預けられる託児所機能を設けた場合、その託児所内における安全管理のモニタリングが必要。
公共施設に居酒屋を設置することで、器物破損や経営維持のためのコスト面でのリスク。	扱う材質や店内の内装で危険なものがないかというチェックや、夜間営業による光熱水費等の管理のモニタリングが必要。
大提灯を外に持ち出して活性化につなげることによる移動面や事故のリスク。	行政と連携しつつ、各地域の大提灯に関わる人も参加し、安全対策のモニタリングが必要。
若者が使いやすい公共施設に、ライブハウスや飲食出来る場所を設置するのは良いが、利用者層の違いによるトラブル（夜間近所での騒音や施設内でのトラブル）が起きるリスク。	ルールを色々と設け過ぎると結局利用はされないため、運営あるいはモニタリングに行政だけではなく地域の市民が関わって協力体制をとることが必要。（しかしボランティアではいつまでも続かないため、それに対して行政側から何かしらの対価が必要だろう）
公共施設に行っても適切なサービス対応がされていなくて、市民や観光客の利用者が減っていくリスク。	公共施設も含めた、西尾市内の「おもてなし」面＝サービス面の品質モニタリングが必要。
多くの人が使える広場を作ったことで、犬のフンが増え、不良行為を行う人が現れて、近隣住民からクレームが来るリスク。	オープンな場所にてこ監視カメラを設置し、その場で不良行為を行っている者に対して素早く取り締まれる警備システムを設置する等のモニタリングが必要。

第7回 にしお未来まちづくり塾の振り返り

開講記録●平成 26 年 11 月 16 日（日）13:00～16:00/西尾市役所（5 階）51 会議室/1 組 12 名・2 組 15 名・傍聴者 3 名

第7回テーマ：官民連携手法による再配置プロジェクトとファイナンス（資金調達）～何をするにもお金がいる！？～

西尾市を「会社」と見立てて資金調達の手法を考える

西尾市全体を「西尾シティ・ホールディングス」という株式会社だと仮定して、公共施設は会社の資産と見なします。様々な事業の利用料収入（サービス料）で経営を行っていきます。市長が社長、市職員が社員、市民の皆さんが株主（共同オーナー）としてそれぞれこの会社に出資する、と仮定し、不足する分は、金融機関などから借り入れて賄います。

第7回の流れ

- ① 今回の主旨
- ② 福島氏による講義
- ③ 現状まとめ
- ④ テーマ1を考える
- ⑤ テーマ2を考える
- ⑥ テーマ3を考える
- ⑦ テーマ4を考える
- ⑧ 発表

金融アナリスト・福島隆則氏の話 西尾シティ・ホールディングス（NCHD）の経営

三井住友トラスト基礎研究所上席主任研究員の福島隆則氏は、新しい資金調達の仕方について、西尾市を「会社」に見立てることで分かりやすく示してください、塾生の皆さんも一緒になって西尾市の取り組みにおける新たな資金調達のあり方を考えました。

出資・経営・資金調達・地域効果の視点で考える公共サービスとは

強み	弱み
機会	脅威

←まずは、各地域の「強み」「弱み」「機会」「脅威」を考慮してから、次のテーマ1～4を考えました。

テーマ1：皆さんが**出資したくなる公共サービス**とはどんな公共サービス？

テーマ2：皆さんが**各地域（一色・吉良地区）で自ら経営するならどんな公共サービス**？

テーマ3：皆さんが**自ら経営する会社はどんなところから資金調達したい**？

テーマ4：皆さんが**自ら経営する会社の存在は地域にどんな効果を発揮する**？

塾生が考えた出資・経営・資金調達・地域効果の内容をまとめてみました

	吉良地区①	吉良地区②	吉良地区③	一色地区①	一色地区②	一色地区③
テーマ1	歴史と自然と産物を活用した施設	移動サービス（モノ・ヒト）	ビアガーデン付体育館のような楽しい公共サービス	特養＋防災＋高齢者向け運動施設／全入保育園特区	一色マラソン／野球場の事業化・拡大化	大提灯活用事業／時間等利用しやすいサービス／介護サービス
テーマ2	駅・道の駅を中心とし、利便性を考えた施設	糟谷邸 café（古民家）	お洒落なカフェ／お洒落な空間	介護サービス／公共交通サービス	日本一の〇〇総合スタジアム	スポーツ／介護／保育／特産物のための事業
テーマ3	補助金／市民からの出資を募る	病院／商工会／タクシー会社／スーパー／郵政／宅配会社	市民ファンド／信用金庫	助成金／有志の自己資金／ふるさと納税	使用料／市民ファンド／企業	地元企業／市民ファンド／会員制にする
テーマ4	出資者のアイデアを採用できるし働きの幅が広がる	地域の魅力づくり／将来安心して住めるまちづくり	楽しみがあってお洒落な空間創出	安心・安全のまちづくり	アスリートやアスリートファンによる集客／大会開催による集客	雇用が生まれる／地元でお金が回る

★まちづくりは決してハード面だけの整備ではないので、例えば「一色マラソン」のように、ソフトの面に注目して考えているところや、「楽しい」「お洒落」であれば「出資したい」「経営したい」と思えるのだという目線が、市民の皆さまと共に進めるまちづくりに必要な目線だということがよく分かりました。

全7回の「にしお未来まちづくり塾」で出された塾生の皆さまからのたくさんの貴重な「声」。それらを整理して新しい公共空間創造の指針としていきます！塾生の皆さま、7回にわたる塾活動に参加いただき、ありがとうございました！！

にしお未来まちづくり塾・番外編の振り返り

開講記録●平成 27 年 1 月 10 日（土）13:00～16:00/西尾市役所（5 階）51 会議室/1 組 7 名・2 組 9 名・傍聴者 6 名

番外編テーマ：にしお未来まちづくり塾の成果をまとめよう！

要求水準書に向けて市民代表の活動成果をまとめよう

西尾市が進めている公共施設再配置プロジェクトは、「にしお未来まちづくり塾」を筆頭に、これまで多様な市民協働の作業を行ってきました。その取組みの集大成として平成 26 年 11 月 29 日に開催した映像シンポジウムでは 386 名の参加者を数え、現在進行形の事業ではありますが、**少しずつ注目**されてきました。

そして、これからはいよいよ本格的に事業化に向けてプロジェクトを進めていく段階に入っていきます。まずは、このプロジェクトを実現させるために企画提案を考える**民間事業者**に「**要求水準書**」というものを提示することになります。「要求水準書」とは「市民が集いやすい」「バリアフリーが行き届いている」「子連れでも利用し易い」等々、**市民の求める「性能」の要求をまとめたもの**になります。例えば、市民の皆様が幅広い世代が利用できるものを求めているのに、民間事業者が若者向けにしか考えていない施設を建ててしまったら困ってしまいますよね。今回は、塾生の皆さんが市民代表として参加していただいたこれまでの「にしお未来まちづくり塾」の成果を「要求水準書」に反映させていくために、番外編として総まとめのワークショップを行いました

番外編の流れ

- ① 今回の主旨説明
- ② これまで出た意見の重要性を考える
吉良：きら市民交流センター（仮称）
一色：いっしき市民交流広場（仮称）
定住促進マネジメント
- ③ 理由を発表
- ④ 席替えをして再び考える
- ⑤ 理由を発表

ワークショップのまとめの進め方

全 7 回の「にしお未来まちづくり塾」で出されてきたたくさんのご意見はどれも理由のある重要なものには変わりないのですが、全てを実現させることは誰もが分かる通り不可能です。そのため、「このプロジェクト（施設）には、これは外せない！」というような重要性を考えて整理する作業を行いました。

対象プロジェクトは、吉良地区が「きら市民交流センター（仮称）」、一色地区が「いっしき市民交流広場（仮称）」と「一色地区定住促進マネジメント」です。これまで出た意見をまとめたリストに、「なぜそうなのか」という理由を大事にしなが、3 段階（とても重要だ：まあまあ重要だ：それほど重要ではない）に優先付けを行いました。

要求水準書に向けて市民代表の活動成果をまとめよう

ワークショップから出て来た各プロジェクトへの「これが大事！」など意見をご紹介します。

きら市民交流センター（仮称）	いっしき市民交流広場（仮称）	一色地区定住促進マネジメント
<ul style="list-style-type: none"> ・「何か楽しいことをしている！」という場所であることが最重要。安心安全は当然。目的を持った楽しさもあり、かつ安全な場所に。そして年齢性別問わず多くの人が使いやすいように。→人がたくさん集まるところは、自然と安心安全・利便性が求められるし、そうなっていくのかもしれない！ ・吉良は歴史に誇りを持っている人が多いから、歴史をアピール出来るようにしたい！ ・現在の吉良公民館のように料理教室と喫茶ルームが横にある状態が活かされて欲しい。 ・体育館にもステージが欲しい。発表会とかをするときにピアノだけは運べないから、ピアノがあると嬉しい。 ・必要最低限の駐車場は必須。また、車も多いが、公共交通も大事にした。→官民連携！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に役立つ安心安全面を強調したい！ ・場所が分かりにくいから看板があったら良いのではないかと。→合併した他のエリアの人も利用しやすい施設になると良い。 ・今のままじゃ駐車場は足りないからもっと完備して欲しい。 ・ペレストリアンデッキは防災にも、イベントにも、交流にも、必要！ ・現在夜が暗過ぎるため、上からではなくフットライトが必要。 ・フットサルが出来る場所が欲しい。 ・バスの時間が早いから、もっと遅くまであるべき。 ・緑の森の中に、楽しみながら健康増進出来る、芸術が散りばめられる、そんな場所にしたい。 ・大提灯を守る。 ・受付には美男美女を！外から来る人への案内が足りないし、英語の標識も必要かもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全は大前提であり最重要！そして安心安全の拠点は一箇所だけではなく分散型でなくてはならない。 ・定住促進は必要かもしれないが支所跡地以外でも検討すべき→しかし一色支所の場所に病院や高齢者の居場所、子供たちの居場所、が出来るようにまちの中心のコミュニティ拠点をつくることで、まち全体が盛り上がっていくのではないかと。 ・子供の病院などもとても苦勞するし、子育て世代が楽な環境、過ごし易い空間づくりをして欲しい。 ・交通網が良くないので、コミュニティバスのようなものがあると良いだろう。 ・一色の彫刻家など、芸術や伝統を生かした取り組みを！